

⑤工期 | 工期を短縮するための具体的方策、
工期・完成期限【総合工事工程表】

同心円・同断面の計画によるサイクル施工で
2019年11月末の竣工を実現します

1 第Ⅱ期の工期短縮における課題に対する具体策

1 膨大な工事量を短期間で施工→構工法の工夫による工期短縮

- 設計・施工協働による同心円・同断面架構を採用することにより、各工種の労務・資材を平準化・サイクル化します。
- 工区を内と外に分け、各工区で円周方向に同一形状・同一スパンの工事を推進し、常に同一数量で施工します。
- 同一仮設材の繰り返し活用が可能となり、習熟効果により工程を促進します。
- 繰り返し作業の効率化により、工種の切替り等重要な節目の重点管理が可能となり、工程促進はもとより、品質・安全性を向上させます。

工区分けと工事サイクルの流れ

説明書類3/10-2

2 労務・資機材が逼迫する状況での工程短縮

- PCa化やユニット化等、構工法における合理化・省力化工法の採用や、施工計画における工夫により、労務・資機材が不足する状況下でも工期縮減を図ります。
 - 具体的な工期短縮手法及び現場作業の省力化
- A. 綿密な動線・ヤード計画により、多工種・多工区で安全に同時施工を行い、36ヶ月の短工期を実現

B. 土工事段階で埋設配管を先行し、フィールド工程を縮減

C. 適正な受電日から算出した特高電気室等の躯体の早期構築

D. A-3地区をヤードとして積極的に活用し、工程を促進

E. スタンド部基礎躯体の7割以上をPCa化

F. マットスラブの一部採用により、掘削土量の削減

G. B2階床スラブにハーフPCa床版、一般階（B1階～5階）にトラス筋付デッキの採用

H. 二段一体型のPCa段床の採用による取付ピース数削減

I. スタンド外周柱・梁、観客席の斜め梁のSRC化（PCa化）による耐火被覆・仕上げ工事量の低減

J. 単スパンで自立可能な片持ち形式の屋根構造による屋根・スタンド仕上げ、フィールド工事の早期着手

K. 屋根鉄骨の全ユニット化による屋根工事工程の縮減

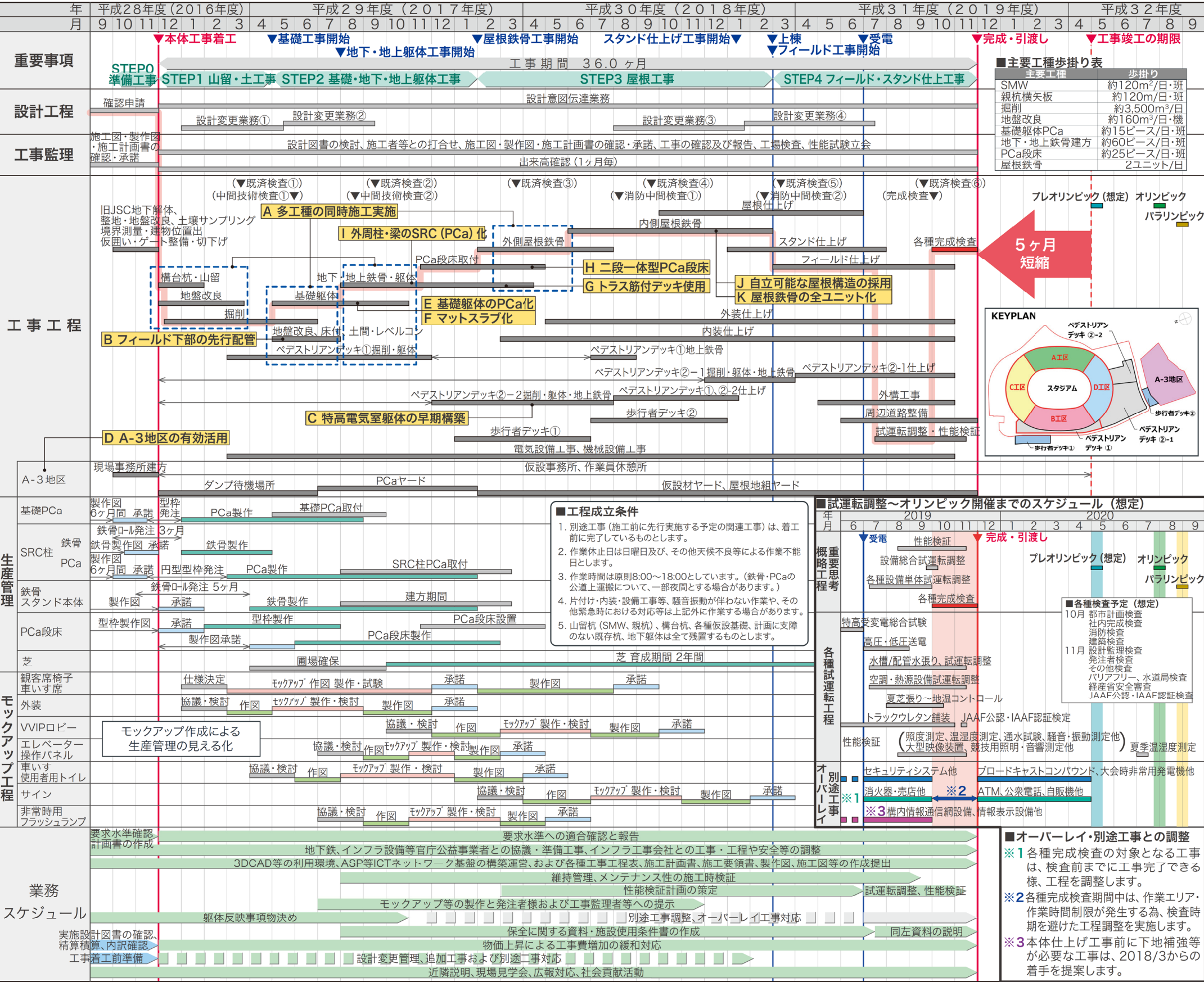
3 迅速な合意形成が可能な生産管理計画

- 生産管理では「見える化による迅速な合意形成」を確立する為、3DCGや実物大モックアップを作成し、仕上げ関連の迅速な合意形成を図ります。

2 第Ⅱ期事業期間を確実に遵守するための工程管理計画

4 クリティカルパスと5Dシミュレーション(3Dモデルと工程・出来高の連動)による管理

- 重要なマイルストーン設定とクリティカルパスの抽出により工程遅延に影響する工種を重点管理します。
- 5Dシミュレーションで出来高を管理し、予定と実績を数値化して比較検証する事で、工程進捗状況を適切に把握し、遅れがある場合に早急に対策を講じます。



5 「性能検証計画書」によるプロセス管理

- 実施設計段階より、性能検証の目的、検査方法、対象範囲、目標値、判定基準を明確にした「性能検証計画書」を策定します。
- 工事進捗の各段階において体系的な性能検証を実施する事で、判定基準への適合確認を継続的に実施します。

6 オリンピックを見据えたオーバーレイ・別途工事調整

- オーバーレイ・別途工事調整会議にて、本体工事との取合い・着手時期の調整を行います。
- セキュリティシステム等、完成検査の対象になる工事については、当該工事の前倒し等の調整を行います。

7 周辺環境への配慮

- 騒音・振動・粉塵防止を徹底した計画により、周辺環境に十分配慮します。
- 職長会が主体となり、定期的に計画地周辺の道路清掃を行います。